

平成 28 年度 P D C A サイクルづくり支援事業 P 調査全県集計結果及び分析報告

教学指導課

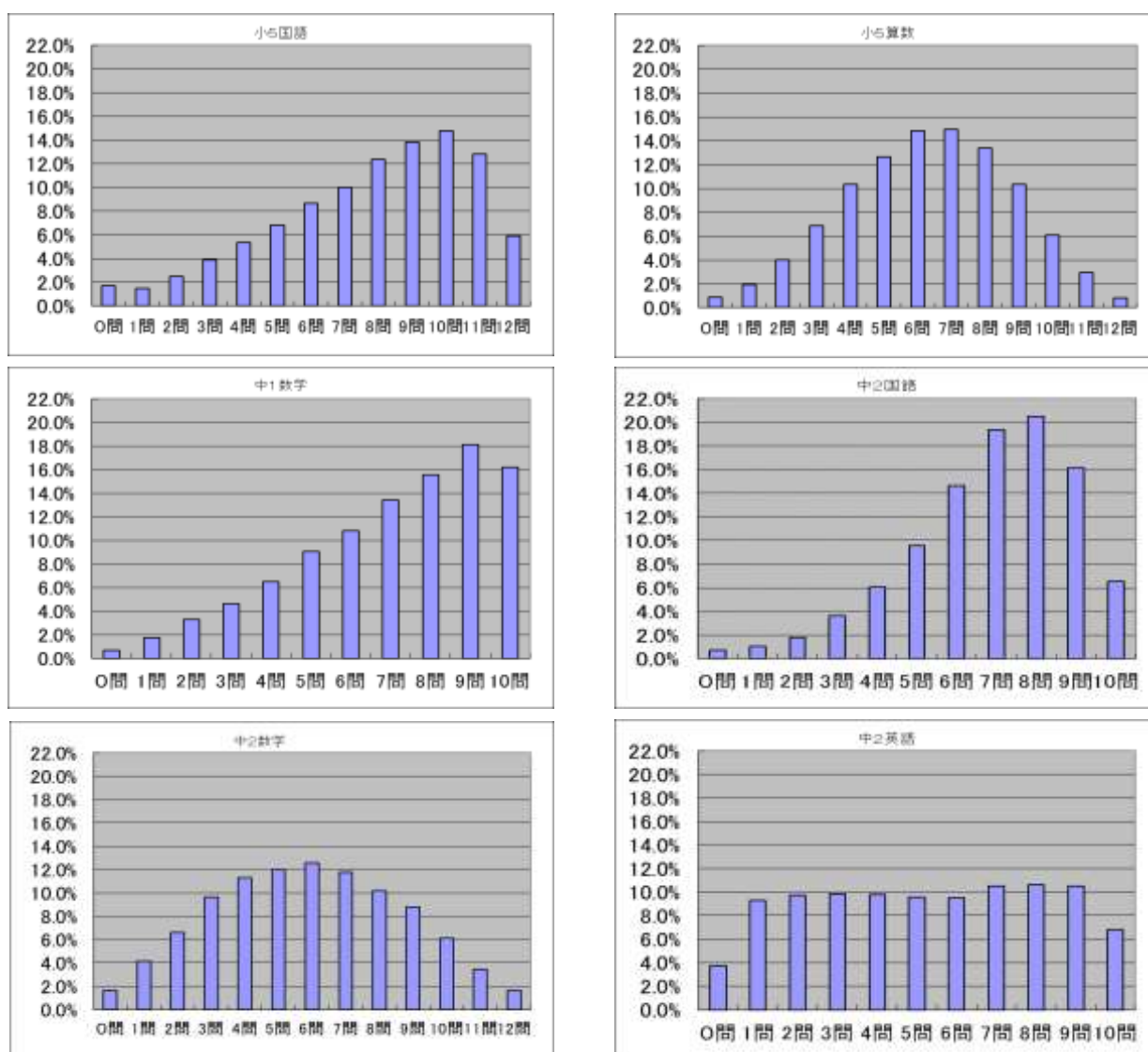
1 調査教科及び調査した児童生徒数

上段：参加人数 下段：参加校数

	国語	算数・数学	英語
小学校 5 年	14,371 人 (78.1%) 303 校 (83.5%)	14,529 人 (79.0%) 305 校 (84.0%)	
中学校 1 年		13,866 人 (74.1%) 151 校 (82.1%)	
中学校 2 年	14,602 人 (75.7%) 156 校 (84.8%)	14,725 人 (76.3%) 156 校 (84.8%)	14,516 人 (75.3%) 156 校 (84.8%)

(参考：全県 小5 18,393 人，中1 18,701 人，中2 19,289 人，小学校 362 校，中学校 183 校，義務教育学校 1 校)

2 正答数の分布グラフ (単位%)



小学校国語は、右寄りのグラフとなり、正答数の多い児童の割合が高くなった。しかし、正答率が 50% 以下となった設問が 2 問あり、ともに活用に関する問題であったことから、声に出して読むときの工夫や表現の工夫を授業に取り入れていきたい。中学校 2 年の数学では、【1】、【2】の正答率がともに 10% 台であったことから、文字を用いて式に表す学習を丁寧に行いたい。中学校 2 年の英語では、H27 年 P 調査と似た形のグラフとなっており、正答数の少ない生徒の割合が高くなっている。

3 正答数の分布 (単位 上段：人，下段：%)

	0問	1問	2問	3問	4問	5問	6問	7問	8問	9問	10問	11問	12問
小5 国語	246	213	357	556	768	979	1244	1439	1775	1982	2121	1840	851
	1.7	1.5	2.5	3.9	5.3	6.8	8.7	10.0	12.4	13.8	14.8	12.8	5.9
小5 算数	129	279	586	996	1502	1834	2159	2173	1941	1502	882	428	118
	0.9	1.9	4.0	6.9	10.3	12.6	14.9	15.0	13.4	10.3	6.1	2.9	0.8
中1 数学	94	242	456	638	902	1254	1498	1865	2158	2514	2245		
	0.7	1.7	3.3	4.6	6.5	9.0	10.8	13.5	15.6	18.1	16.2		
中2 国語	105	152	262	531	883	1396	2138	2829	2997	2355	958		
	0.7	1.0	1.8	3.6	6.0	9.6	14.6	19.4	20.5	16.1	6.6		
中2 数学	241	615	976	1425	1666	1765	1853	1735	1501	1299	902	509	240
	1.6	4.2	6.6	9.7	11.3	12.0	12.6	11.8	10.2	8.8	6.1	3.5	1.6
中2 英語	545	1345	1415	1433	1423	1392	1381	1524	1547	1524	987		
	3.8	9.3	9.7	9.9	9.8	9.6	9.5	10.5	10.7	10.5	6.8		

4 各問の正答率 (単位%) ○知識に関する問題 ◇活用に関する問題

小5 国語	1一 ア○	1一 イ○	1一 ウ○	1二 ◇	2一 ○	2二 ○	2二 ○	2三 ◇	2四 ◇	伊藤 ○	田中 ○	藤村 ○
	85.0	85.2	73.2	46.4	52.3	84.5	63.0	34.3	51.7	68.9	66.6	66.8
小5 算数	【1】 (1)○	【1】 (2)○	【1】 (3)○	【1】 (4)○	【2】 ○	【3】 (1)○	【3】 (2)○	【4】 ○	【5】 (1)○	【5】 (2)○	【6】 ◇	【7】 ◇
	66.7	82.9	63.5	85.6	71.2	10.8	48.3	22.0	53.5	59.2	21.2	46.5
中1 数学	【1】 (1)○	【1】 (2)○	【2】 ○	【3】 ○	【4】 ○	【5】 ◇	【6】 ○	【7】 ◇	【8】 ◇	【9】 ◇		
	80.9	79.0	61.9	57.3	57.9	63.4	83.9	87.0	74.6	56.1		
中2 国語	1一 ○	1二 ◇	1三 ア◇	2一 ア○	2一 イ○	2二 ア◇	2二 イ◇	3一 ○	3二 ○	3三 ◇		
	86.7	48.1	50.1	95.9	67.3	64.4	76.8	59.8	84.5	52.2		
中2 数学	【1】 ○	【2】 ○	【3】 ○	【4】 ◇	【5】 ○	【6】 ○	【7】 ○	【8】 ○	【9】 (1)◇	【9】 (2)◇	【10】 (1)○	【10】 (2)◇
	19.9	17.5	54.0	68.5	61.2	64.5	37.0	70.2	70.3	50.1	36.1	40.0
中2 英語	【1】 ○	【2】 ○	【3】 ○	【4】 ○	【5】 ◇	【6】 ○	【7】 ○	【8】 ○	【9】 ○	【10】 ◇		
	59.2	91.1	56.5	68.2	30.8	55.9	48.7	39.7	35.6	38.1		

5 知識に関する問題と活用に関する問題の正答率（単位％）

	小5国語	中2国語	小5算数	中1数学	中2数学	中2英語
知識に関する問題	71.7	78.9	56.4	70.1	45.0	56.9
活用に関する問題	44.1	58.3	33.8	70.3	57.3	34.5

小学校では、知識に関する問題と活用に関する問題の正答率に大きな開きがある。授業において、身に付けた知識を用いて問題を解決していくような場面や学習問題を意図的に取り入れていく必要がある。後ほど示す各教科・学年の課題と指導改善の方向を参考にして、授業改善を進めていきたい。

知識に関する問題では、一部で定着が不十分なものが見られる。P調査問題は、昨年までの学習内容なので、補充・補完指導を速やかに行い、確実に知識が身に付くようにしたい。確かな理解を深める授業を行っていくとともに、クリア問題、レビュー問題等（総合教育センターホームページ「学びの広場」参照）を活用して、さらに確実に学習内容を定着させることが必要である。

6 P調査結果から見えた課題と授業改善のポイント

P調査結果で見えた課題

- ・ 文章の内容を正確に捉え、目的や意図に応じて、適切に答えること。
- ・ 与えられた情報から必要な情報を選択、整理し、筋道を立てて考えること。

授業改善のポイント

- 1 文章を丁寧に読み取り、どのような内容が書かれているのかを明確にする活動を取り入れましょう。そして、何を問われているのかを判断し、適切に答えるための過程を大事にしていきましょう。
 - ・ どのような内容が書かれている文章なのかを、図を用いて説明させたり、グループ活動の中で互いに説明し合ったりすることで、理解が深まります。
- 2 与えられた情報の中から、課題を解決するために必要な情報や、その情報が何を意味しているのかを整理する活動を取り入れましょう。
 - ・ 課題を解決するために与えられた情報を丁寧に整理していくことで、その情報をどのように使えばよいのか、また、その情報を利用して考えを深めていくことにつながります。
- 3 これらのことを、小・中学校ともに、全教科で取り組むことが大切です。
 - ・ P調査で実施した教科に限らず、各教科及び学級の授業改善がさらに進むよう取組を見直しましょう。

7 各教科・学年において課題となった問題と指導改善の方向

(1) 小学校5年国語

1二 正答率 46.4%

① 課題 「C 読むこと」

内容の中心や場面の様子がよく分かるように音読すること

・声を出して読むときに工夫することが書かれているが、けんじの気持ちについて想像したことを理由として取り上げていない児童が約25%いる。

② 指導改善の方向

・物語の魅力などが伝わるように音読するためには、場面の移り変わり、登場人物の行動や気持ちの変化を捉えることが重要である。その際、自分のもっている知識や経験などと結び付けながら、繰り返し何度も声に出して読むことで想像を広げたり理解を深めたりすることができると考えられる。

授業では、以下の点を大事にしましょう。

①児童が繰り返し音読することを通して、声の大きさや質、読む速さ、間の取り方などの観点に気付くようにしましょう。

②教師がモデルとなって、様々な音読の仕方を示すことも有効です。

③児童が自分の感じ方にぴったり合う音読の仕方を見つけることができるように、声に出して読むことを繰り返しましょう。

このような学習を通し、音読の楽しさを味わえるように指導しましょう。

③ 過去に同じねらいで出題された問題の正答率

・平成27年度全国学力・学習状況調査 B3二 66.8%

補充・補完指導をしましょう

チャレンジ問題・小6・1月 の活用

2一 正答率 52.3%

① 課題 「B 書くこと」

目的や意図に応じ、パンフレットの割り付けをすること

・パンフレットの特徴をもとに、どこにどのような内容が書かれているのかとらえられていない児童が約45%いる。

② 指導改善の方向

・パンフレットは、次のような特徴があると考えられる。

①複数の記事が掲載されていること

②一番知らせたい記事が最初に大きく取り上げられていること

③記事一つ一つに見出しが付けられていること

パンフレットを書くためには、その特徴に基づいて割り付けをし、見出しを付けて記事を書くことが重要である。そのためには、パンフレットを書く目的や意図を明確にもつことができるように指導することが重要である。

授業では、パンフレットを書くにあたり、誰に、どのような目的で書くのかをはっきりさせ、その上で、設定した目的に合わせて割り付けをし、見出しを付けて記事を書いていき、それぞれの過程で目的や意図に合っているか検証していくことが大切です。

③ 過去に同じねらいで出題された問題の正答率

・平成27年度全国学力・学習状況調査 B1一 74.7%

補充・補完指導をしましょう

チャレンジ問題・小5・2月 の活用

2三 正答率 34.3%

① 課題 「B 書くこと」

目的や意図に応じ、記事に見出しを付けること

・見出しの表現の工夫がどのような効果をねらっているのか結び付けられていない児童が約 65%いる。

② 指導改善の方向

・見出しを付けるにあたっては、読み手にどのような内容に興味・関心をもってほしいのか、何を伝えたいのかなど、編集の目的や意図を明確にすることが重要である。その上で、語句の反復、誇張、倒置、呼びかけなど、様々な表現の仕方とその効果について検証することが必要である。

授業では、以下の点を大事にしましょう。

①目的や意図が違う見出しに合わせて書き換える。

②それぞれの見出しに合わせて書き換えた記事を読み比べる。

このような学習を通じて、目的や意図に応じて記事に見出しを付けることの大切さに気付くことができるように指導しましょう。

③ 過去に同じねらいで出題された問題の正答率

・平成 27 年度全国学力・学習状況調査 B1二 71.0%

補充・補完指導をしましょう

チャレンジ問題・小6・11月 の活用

2四 正答率 51.7%

① 課題 「B 書くこと」

目的や意図に応じ、メモの内容を整理しながら記事を書くこと

・メモの内容を引用して書いたり、それらを適切な文量にまとめて書いたりすることが不十分な児童が約 50%いる。

・メモを基に一文で書くことができなかった児童が約 10%いる。

② 指導改善の方向

・調べた内容をパンフレットとして書く際、事実と感想、意見などを区別するとともに、目的や意図に応じ、伝えたい内容が十分に伝わるように、調べた複数の内容を整理して書くことができるように指導することが必要である。

授業では、読み手に伝えたいことの内容を明確にした上で、自分で調べた内容や、関係者に取材した事柄の中から取捨選択し、伝えたいことが読み手に伝わるように、整理して記事を書く指導が考えられます。

③ 過去に同じねらいで出題された問題の正答率

・平成 27 年度全国学力・学習状況調査 B1三 34.9%

補充・補完指導をしましょう

クリア問題・小5・1月 の活用

(2) 小学校5年算数

【3】(1) 正答率 10.8 %

① 課題

量の単位や測定の意味等について理解すること

・主な誤答例

$1\text{ m}^2=10000\text{ cm}^2$ であることが、理解できていないために、 $1.15\text{ m}^2=115\text{ cm}^2$ または 1150 cm^2 と答えた誤答が42.7%

② 指導改善の方向

この調査を受けた児童・生徒への補充・補完

レビュー問題:小4⑩-3の活用
H27 P調査【3】(1) 正答率 32.9%

これから学習する児童・生徒への指導

小学校4年

・教科書「下」P11「面積」

「 1 m^2 は、何 cm^2 」について考える場面で、 $1\text{ m}=100\text{ cm}$ であることをきっかけとして、図を用いて 1 m^2 の正方形には、 1 cm^2 の正方形が、縦に100個、横に100個並ぶことを確かめて、 $1\text{ m}^2=10000\text{ cm}^2$ であることを理解できるようにしていきましょう。

【3】(2) 正答率 48.3 %

① 課題

基本的な図形の定義や性質に基づいて、情報を整理し筋道を立てて考えること

・主な誤答例

図形を弁別するための根拠となる正方形やひし形、平行四辺形、台形、直角三角形、二等辺三角形の定義等が理解できていないため、「正方形」と答えるところを「長方形」と答えた誤答が13.6%

② 指導改善の方向

この調査を受けた児童・生徒への補充・補完

レビュー問題:小2⑪-2, 小4⑤-3の活用
H27 P調査【3】(2) 正答率 40.6%

これから学習する児童・生徒への指導

小学校2年

・教科書「下」P49「正方形」

小学校4年

・教科書「上」P71, P74「垂直・平行と四角形」

図形を弁別するための根拠となる定義や性質を明確にして、それを説明する活動を充実していきましょう。また、図形の構成の仕方や作図の仕方について、図形の特徴を根拠にしながら説明する場面を取り入れていきましょう。

【4】正答率 22.0 %

① 課題

伴って変わる二つの数量について、関係を表にまとめたり変化の規則性を読み取ったりすること

・主な誤答例

表をつくり、増え方のきまりを見つけることができないため、8と答えた誤答が57.7%

② 指導改善の方向

この調査を受けた児童・生徒への補充・補完

レビュー問題:小4⑮-1の活用
H26 P調査【4】正答率 32.0%

これから学習する児童・生徒への指導

小学校4年

・教科書「下」P84「変わり方」

図を基に表をつくり、数の増え方に着目し、きまりを見つける活動を取り入れていきましょう。その際、変わり方を調べるには、表が便利であることや、二つの数量関係を式に表すことができるものもあることに気づくようにしていきましょう。

【6】正答率 21.2 %

① 課題

概数について理解し、目的に応じて用いること

・主な誤答例

品物の金額を切り上げずに、四捨五入によって、買い物ができるかと判断したため、理由を四捨五入と書いた誤答が49.2%

② 指導改善の方向

この調査を受けた児童・生徒への補充・補完

レビュー問題:小2⑤-3, 小3⑤-3の活用

これから学習する児童・生徒への指導

小学校2年

・教科書「上」P80, P81「買えますか?買えませんか?」

小学校3年

・教科書「上」P82, P83「買えますか?買えませんか?」

日常生活の事象と関連付けて、「四捨五入」「切り上げ」「切り捨て」のそれぞれの意味と処理の仕方について、見積りの結果と実際の数の和の大小関係から、目的に応じた判断ができる場面を設定していきましょう。